

# 緩傾斜表面排水処理技術の普及支援

## 背景と課題

水稲後の野菜栽培圃場は排水不良圃場が多く、近年増加している集中豪雨や台風で計画的な作付ができず、農業経営に大きな影響を与えています。

## 目的

圃場を均平化するレーザーレベル技術を応用して、圃場全体に緩い傾斜をつけて圃場に溜まった雨水を表面排水させる緩傾斜表面排水処理技術の排水効果を実証圃場を設置して検証し、現場への普及支援を図ります。

## 活動内容 および成果

1. 県内6カ所に1/500~1/250の傾斜率で緩傾斜表面排水処理圃場を施工（経費は約9万円/10a）して、カリフラワー、ホウレンソウ、ブロッコリー、洋ニンジンを栽培し、降雨後の排水状況や生育状況、傾斜の変動を調査しました。
2. 9~10月の3回の大雨に遭遇し、近隣の平坦圃場は冠水しましたが、緩傾斜圃場は大きな被害もなく、洋ニンジンは予定どおり12月上旬に播種できました。



カリフラワー圃場の状況  
(10.24 徳島市)  
左：無処理 右：緩傾斜



ホウレンソウ圃場の状況  
(12.26 徳島市)



ホウレンソウ圃場の状況  
(12.26 石井町)

3. 圃場の傾斜の変動状況を定期的に測量計で調査した結果、6カ所とも傾斜が維持されていました。東みよし町では7月上旬に降雨量500mmの集中豪雨に遭遇しましたが順調に排水され、表土の流亡もなく、傾斜が維持されていました。また、施工後3年間は傾斜が維持され、排水効果が持続することがわかりました。



洋ニンジン圃場の状況  
(12.28 小松島市)



大雨時の排水の様子  
(7.5 東みよし町)



大雨後の状況  
(7.6 東みよし町)  
左：無処理 右：緩傾斜